

IBM

@server

iSeries

Capacity on Demand

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

Capacity on Demand

バージョン 5 リリース 3

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、25 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書は、IBM OS/400 のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 (製品番号 5722-SS1)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックslashと表示されたり、バックslashが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Capacity on Demand

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

Capacity on Demand	1
V5R3 の新機能	2
トピックの印刷	2
Capacity on Demand の準備	2
キャパシティー・プランニングの実施	3
プロセッサの活動化時の決定	4
エレクトロニック・サービス・エージェントの要件	4
Capacity on Demand の環境のセットアップ	5
Capacity on Demand のソフトウェア・ライセンスの考慮事項	5
Capacity Upgrade on Demand	6
Capacity Upgrade on Demand の概念	6
Capacity Upgrade on Demand (CUoD) の注文	8
Capacity Upgrade on Demand の使用	9
シナリオ: Capacity Upgrade on Demand (CUoD)	11
On/Off Capacity on Demand	12
On/Off Capacity on Demand の概念	13
On/Off Capacity on Demand の使用可能化	16
On/Off Capacity on Demand の使用	16
On/Off Capacity on Demand の管理	19
iSeries for Capacity BackUp	22
iSeries for Capacity BackUp で使用可能なプロセッサ数	22
iSeries Capacity BackUp サーバーのソフトウェア・ライセンス	23
Capacity on Demand の関連情報	23
付録. 特記事項	25
商標	26
資料に関するご使用条件	26

Capacity on Demand

Capacity on Demand (CoD) という用語には、業務のピーク時など必要に応じて、ご使用の iSeries[™] サーバー上の 1 つ以上のプロセッサを動的に活動化できる、さまざまな提供機能がすべて含まれます。ご使用のサーバーにすでにインストールされている非アクティブ・プロセッサを、一時的または永続的に活動化することができます。

サーバー・モデルの中には複数の [▶](#) アクティブ・プロセッサを持つものがあります。アクティブ・プロセッサとは、iSeries サーバーを製造元から出荷する時点ですでに活動化されているプロセッサのことです。非アクティブ・プロセッサとは、サーバーに組み込み済みであるものの、活動化するまで使用できないプロセッサのことです。 [◀](#)

非アクティブ・プロセッサは、アクティベーション機構を購入して指定されたアクティベーション・コードを入力することにより、永続的に活動化することができます。 [▶](#) iSeries サーバーで提供される *Capacity on Demand* オプションのうち、キャパシティを永続的に活動化できるものを *Capacity Upgrade on Demand* と言います。 [◀](#)

また、非アクティブ・プロセッサを一時的に使用することもできるため、業務のピーク時に必要な日数だけプロセッサを活動化することができます。 [▶](#) iSeries サーバーで提供される *Capacity on Demand* オプションのうち、キャパシティを一時的に活動化できるものを *On/Off Capacity on Demand* と言います。 [◀](#)

2 ページの『V5R3 の新機能』

このトピックでは、このリリースでの新規または変更点について説明します。

2 ページの『トピックの印刷』

この情報の印刷版が必要な場合には、PDF を印刷するためにここに進みます。

2 ページの『Capacity on Demand の準備』

ご使用のサーバーと環境を *Capacity on Demand* に合わせて準備します。

6 ページの『Capacity Upgrade on Demand』

Capacity Upgrade on Demand (CUoD) での追加プロセッサの活動化プロセスにより、永続的キャパシティを使用できます。

12 ページの『On/Off Capacity on Demand』

On/Off Capacity on Demand では、業務のピーク時または災害時の状況の必要性に合わせてオン/オフが可能な、一時的キャパシティを使用できます。

[▶](#) 22 ページの『iSeries for Capacity BackUp』

iSeries for Capacity BackUp オファリングでは *On/Off Capacity on Demand* の機能が使用して、企業のオフサイト災害時回復サーバーを提供します。 [◀](#)

23 ページの『Capacity on Demand の関連情報』

IBM[®] の関連情報として、技術、ノウハウ、および「方法」に関する情報資源をリストしています。

V5R3 の新機能

この情報は、V5R3 用 Capacity on Demand での変更点を明確にするものです。

新規用語

スタートアップ・プロセッサ は、アクティブ・プロセッサ という用語に置き換えられました。スタンバイ・プロセッサ は、非アクティブ・プロセッサ という用語に置き換えられました。



新規トピック

CoD の計画と準備に関する情報、および iSeries for Capacity BackUp オファリングに関する情報を提供する以下の新規トピックが、Capacity on Demand に追加されました。

- 『Capacity on Demand の準備』
- 22 ページの『iSeries for Capacity BackUp』

新機能または変更点の表示

技術的変更が行われた箇所を、次のよう示しています。

-  イメージで、新規または変更された情報の始めを示しています。
-  イメージで、新規または変更された情報の終わりを示しています。

このリリースでの新機能または変更点に関するその他の情報は、プログラム資料説明書

トピックの印刷


この資料の PDF 版を表示またはダウンロードするには、Capacity on Demand (約 411 KB) を選択します。

PDF ファイルの保存

表示または印刷のために PDF をワークステーションに保存するには、以下のようになります。

1. ブラウザーで PDF を右マウス・ボタン・クリックする (上部のリンクを右マウス・ボタン・クリック)。
2. Internet Explorer を使用している場合は、「対象をファイルに保存...」をクリックする。 Netscape Communicator を使用している場合は、「リンクを名前を付けて保存...」をクリックする。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。このアプリケーションは、Adobe Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  からダウンロードできます。

Capacity on Demand の準備

ワークロードに対応するために資源を追加する必要がある場合、Capacity on Demand を使用してサーバー上のプロセッサを活動化することができます。このトピックを使用して、サーバーでの Capacity on Demand の利用に備えてください。

『キャパシティー・プランニングの実施』

このトピックには、非アクティブ・プロセッサがあるサーバーのキャパシティー・プランニングを行う際の考慮事項と情報資源が記載されています。

4 ページの『プロセッサの活動化時の決定』

追加プロセッサをいつ活動化するか、および新規資源がどれだけ必要になるかを判断するために、CPU 使用率を監視してその傾向を記録します。

4 ページの『エレクトロニック・サービス・エージェントの要件』

情報を IBM に電子的に送るときに使用するエレクトロニック・サービス・エージェントに関する要件を説明しています。

5 ページの『Capacity on Demand の環境のセットアップ』

新しいキャパシティーを組み込めるようにご使用のサーバーの準備を行い、必要なときに追加の活動化を注文できる状態にします。

5 ページの『Capacity on Demand のソフトウェア・ライセンスの考慮事項』

CoD プロセッサの活動化が OS/400^(R) ソフトウェア・ライセンスに及ぼす影響を説明しています。



キャパシティー・プランニングの実施

非アクティブ・プロセッサがあるサーバーのキャパシティー・プランニングで使用する手順と情報資源は、他のサーバーのサイジングの際に使用するものと基本的には同じです。

なお、非アクティブ・プロセッサがあるサーバーのキャパシティー・プランニングは、論理区画の計画に大きく影響します。サーバーに必要なキャパシティーを決定する際に使用できるツール、情報資源、およびオフリングのセットは、非アクティブ・プロセッサがあるサーバーをサポートできるように更新されています。

キャパシティー・プランニングに役立つ情報資源として、次を参照してください。

論理区画計画

このトピックは、ハードウェア資源、ソフトウェア・リリース・レベル、および企業の当面および将来のワークロード要求を評価する計画を作成する際に役立ちます。また、サーバーの論理区画を作成する前の計画プロセスに必要なステップを説明しています。

サーバーの拡張時および拡張方法の決定

このトピックでは、キャパシティー・プランニングと資源使用率の傾向の識別に使用できるいくつかのツールを説明しています。

iSeries Benchmark Center



(www.ibm.com/servers/eserver/series/benchmark/cbc/)

この IBM Web サイトには、アプリケーション環境のベンチマークを行う際に役立つ情報があります。

iSeries Solutions Center, Capacity Planning Services




(www.ibm.com/services/its/us/as400solutionctr.html)

この IBM コンサルティング・サービスを、お客様の業務の増大する要求に合うサーバー・ソリューションを計画する際にお役立てください。

注： Workload Estimator は Capacity on Demand をサポートしていますが、アクティブなプロセッサの推奨数の見積もりのみを戻します。非アクティブ・プロセッサによって提供される追加キャパシティーは、推奨数には表されません。

プロセッサの活動化時の決定

ワークロードに対応するために資源を追加する必要がある場合、Capacity on Demand を使用してシステムにプロセッサを追加することができます。ご使用のシステムの CPU 使用率と CPU 使用率の傾向をモニターして、追加プロセッサをいつ活動化してどれだけの新規資源が必要かを決定する必要があります。

CPU 使用率情報の報告に使用できるパフォーマンス・ツールは多数あります。特に、 IBM Performance Management for iSeries を使用すると、資源使用率の傾向を識別することができます。iSeries ナビゲーターのモニターを使用すると、資源の使われ方のより詳細な情報と、使用率が事前に定義されたクリティカル・レベルに達したときにアラートを得ることができます。

非アクティブ・プロセッサがあるサーバーの CPU 使用率の測定

使用可能なすべてのプロセッサの平均使用量を計算するとき、CPU 使用率を報告するシステム機能は、非アクティブ・プロセッサを CPU キャパシティーの総量に含めません。CPU 使用率のパーセンテージを報告するさまざまなシステム機能では、非アクティブ・プロセッサはアクティブとして見なされません。使用された CPU キャパシティーのパーセンテージ (iSeries ナビゲーターでは CPU 使用率 CPU パーセント) は、経過時間内にプロセッサがアクティブだった時間の量に基づいて計算されたメトリックです。これは通常、パーセンテージで報告され、100% は経過時間全体を通してプロセッサがビジーだったことを示します。複数のプロセッサがある場合は、すべてのプロセッサの平均使用量になるように CPU 時間が調整されて、常に使用率は使用可能な全キャパシティーのパーセンテージとして報告されません。

対話型 CPU 使用率も、全システム CPU のパーセンテージとして報告されます。このメトリックは、Capacity on Demand を使用するサーバーに対しても前記のシステム CPU 使用率の場合と同じように影響を及ぼします。

エレクトロニック・サービス・エージェントの要件

Capacity Upgrade on Demand の購入のご注文をいただくと、IBM は注文情報とご使用のサーバーの重要プロダクト・データ (VPD) を組み合わせて、ご使用のサーバーの非アクティブ・プロセッサの活動化に必要なアクティベーション・コードを作成します。

➤ モデル 830、840、890-2487、および 890-2488 のアクティベーション機構をご購入の際は、ご使用のサーバーの重要プロダクト・データ (VPD) も提供していただく必要があります。この方法として、ファクシミリを使用する方法と、電子的に行う方法があります。◀

VPD 情報は、エレクトロニック・サービス・エージェントを使用して電子的に IBM に送信されます。このエレクトロニック・サービス・エージェントは、包括的な技術サービスで IBM iSeries 専用のサポート・イニシアチブである、エクストリーム・サポートの一部です。 [▶](#) 詳しくは、エクストリーム・サポートのトピックを参照してください。 [◀](#)

エレクトロニック・サービス・エージェントは、サーバーのインベントリー情報をお客様が定義できるタイム・テーブルに基づいて定期的に IBM に送信することを目的としています。

エレクトロニック・サービス・エージェントのインストールも含めた詳細な説明は、iSeries エレクトロニック・サービス・エージェント 使用者の手引き  を参照してください。

Capacity on Demand の環境のセットアップ

アクティベーション機構を注文する前に、追加キャパシティーの注文および組み込みのための環境を準備する必要があります。

Capacity on Demand の注文の準備

モデル 830、840、890-2487、および 890-2488 のアクティベーション機構をご購入の際は、ご使用のサーバーの重要プロダクト・データ (VPD) も提供していただく必要があります。 [▶](#) この方法としては、ファクシミリを使用する方法と、4 ページの『エレクトロニック・サービス・エージェントの要件』を使用する方法があります。 [◀](#)

追加キャパシティーの準備

活動化されるプロセッサをご使用のサーバーで完全に使用できるようにするには、次の準備を行うこともできます。

- I/O (入出力) の調整を行う。
- メモリーのアップグレードを行う。
- 論理区画 (LPAR) を準備する。

論理区画を使用するサーバーの場合、新たに活動化されたプロセッサは、一次区画に関連付けられます。新規キャパシティーを使用する前に、活動化されたすべてのプロセッサを区画に割り当てる必要があります。

Capacity on Demand のソフトウェア・ライセンスの考慮事項

ソフトウェアの使用許諾に使用される方式には、ユーザーごと、ソフトウェア層、プロセッサごとなど、いくつかあります。ライセンスの管理には、通常は、ライセンス・マネージャー と呼ばれるツールが使用されます。ライセンス・マネージャーは、ソフトウェアの使用を検出してそれをライセンスと比較し、その結果に基づいてアクションを起こします。ソフトウェア・ライセンスには、ソフト、ファーム、またはハード準拠があります。ライセンス・マネージャーは、IBM から提供されるか (たとえば Software License Manager)、ソフトウェア・プロバイダーから使用可能なものが提供されます。

ソフトウェア層

OS/400 を使用するサーバーの場合、多くのビジネス・パートナーが、サーバーで使用可能なプロセッサ・フィーチャー・コードのシステム値 (QPRCFEAT) に基づいて、ソフトウェア層によるライセンス料金を設定しています。この OS/400 システム値は、非アクティブ・プロセッサがある iSeries サーバーで使用可能であり、非アクティブ・プロセッサがいくつ活動化されてもこの値は変わりません。

プロセッサごとのライセンス交付

プロセッサごとのライセンス交付は、Capacity Upgrade on Demand によってプロセッサが永続的に活動化される時に変更が生じるただ 1 つのソフトウェアのライセンス交付方式です。ライセンス・マネージャーは、プロセッサが活動化されてライセンス交付を受けたソフトウェアで使用されることを認識すると、お客様の注文およびお客様から報告いただいた使用法に基づいてソフトウェア・ライセンスをチェックし、新しいライセンス・キーを規定して、お客様に永続的ライセンスの請求を行います。

プロセッサの一時的活動化

ライセンス・マネージャーは、プロセッサが活動化されてライセンス交付を受けたソフトウェアで使用されることを認識すると、お客様の注文およびお客様から報告いただいた使用法に基づいてソフトウェア・ライセンスをチェックし、お客様に 1 日単位でライセンスの請求を行います。

Capacity Upgrade on Demand

Capacity Upgrade on Demand (CUoD) を使用して、サーバーを再始動したり業務を中断したりする必要なしに、1 つ以上の非アクティブ・プロセッサを永続的に活動化することができます。

このトピックは、Capacity Upgrade on Demand の動作と、それをサーバーで利用する際に必要なことを理解するためのものです。

『Capacity Upgrade on Demand の概念』

まずここで、Capacity Upgrade on Demand の概念を理解してください。 [▶ Capacity Upgrade on Demand](#) を使用して永続的に活動化できる非アクティブ・プロセッサがあるサーバー・モデルおよびプロセッサ・フィーチャーも、ここから知ることができます。 [◀](#)

8 ページの『Capacity Upgrade on Demand (CUoD) の注文』

非アクティブ・プロセッサを活動化することができるアクティベーション・コードを入手するには、アクティベーション機構を注文する必要があります。

9 ページの『Capacity Upgrade on Demand の使用』

サーバーでの Capacity Upgrade on Demand の使用法の説明はここから始まります。

11 ページの『シナリオ: Capacity Upgrade on Demand (CUoD)』

ここでは、管理者が永続的キャパシティの計画、注文、および活動化を行う際に必要なステップの例が記載されています。

Capacity Upgrade on Demand の概念

プロセッサの永続的活動化を購入すると、Capacity Upgrade on Demand (CUoD) を使用して、選択したモデル上で追加プロセッサを活動化することができます。この機能により、新しいワークロードに応じてキャパシティを迅速にしかも経済的に追加することができ、予期していなかったパフォーマンスの要求にサーバーを適応させることができるため、価値が大幅に高まります。

ご使用のサーバーのプロセッサを、10 ページの『試行期間としての非アクティブ・プロセッサの活動化』として活動化することもできます。

CUoD を利用するにあたって必要な概念として、次のものがあります。

7 ページの『Capacity Upgrade on Demand で使用可能なプロセッサ数』



サーバー・モデルごとの使用可能なアクティブおよび非アクティブなプロセッサ数を記載しています。

『アクティベーション・コード』

非アクティブ・プロセッサの一部またはすべてを永続的に活動化することを決定したら、アクティベーション機構を 1 つ以上注文してご購入いただく必要があります。この結果として、プロセッサを活動化できるアクティベーション・コードを得ることができます。

Capacity Upgrade on Demand で使用可能なプロセッサ数

Capacity Upgrade on Demand (CUoD) を使用して、サーバーを再始動したり業務を中断したりする必要なしに、1 つ以上の非アクティブ・プロセッサを永続的に活動化することができます。

次の表には、 非アクティブ・プロセッサを持つ iSeries サーバー・モデルおよびプロセッサ・フィーチャーがリストされています。Capacity Upgrade on Demand によるサーバーの非アクティブ・プロセッサの永続的活動化は、いつでも行えます。

モデル	プロセッサ・フィーチャー	アクティベーション機構	アクティブ・プロセッサ	非アクティブ・プロセッサ	インストール済みプロセッサ
825	2473	1609	3	3	6
830	2349	1605	4	4	8
830	2351*	1605	1	7	8
840	2352	1604	8	4	12
840	2353	1604	12	6	18
840	2354	1604	18	6	24
840	2416	1604	8	4	12
840	2417	1604	12	6	18
840	2419	1604	18	6	24
870	2489	1614	5	3	8
870	2486	1611	8	8	16
890	2487	1610	16	8	24
890	2488	1610	24	8	32
890	2497	1612	16	8	24
890	2498	1613	24	8	32

* 限定使用

アクティベーション・コード

非アクティブ・プロセッサの一部またはすべてを永続的に活動化することを決定したら、アクティベーション機構を 1 つ以上注文してご購入いただく必要があります。この結果として、アクティベーション・コードを得ることができます。

注文が行われると、注文記録は、ご使用のサーバーから収集される重要プロダクト・データ (VPD) と組み合わせられます。この情報は、ご使用のサーバーに固有のアクティベーション・コードを作成するのに使用されます。このコードは、ユーザーが非アクティブ・プロセッサを活動化するために使用するキャパシティー・ライセンス・キーと考えることができます。

このアクティベーション・コードは、すぐに利用できるように、IBM Web サイトに掲載されます。これは、注文にサーバーから収集された必要な VPD が伴っていれば、通常は、IBM の製造部門が注文を受け

取ってから 1 労働日 (24 時間) 以内に行われます。作成されたアクティベーション・コードには、次の iSeries Capacity Upgrade on Demand Web サイトで、ご使用のシステム・タイプとシリアル番号を使用してアクセスすることができます。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/ondemand/cod/> 

アクティベーション機構の注文方法とアクティベーション・コードの入手方法についての説明は、『Capacity Upgrade on Demand (CUoD) の注文』を参照してください。

Capacity Upgrade on Demand (CUoD) の注文

新規サーバー用、モデルのアップグレード用、またはインストール済みサーバー用にプロセッサ・アクティベーション機構をご注文いただけます。新規サーバーまたはモデル・アップグレードの場合、プロセッサ・アクティベーション機構を 1 つ以上注文に含めることができます。この場合、プロセッサ・アクティベーション・コードは、サーバーがお客様に発送される前に入力されます。

インストール済みサーバーの場合、非アクティブ・プロセッサの一部またはすべてを永続的に活動化することにした場合は、プロセッサ・アクティベーション機構を 1 つ以上注文し、その結果として得られるプロセッサ・アクティベーション・コードを入力して非アクティブ・プロセッサを活動化する必要があります。

注:

- ご注文を処理してその結果のプロセッサ・アクティベーション・コードを掲示するまで、数日を要する場合があります。
 - ▶ 825、870、および 890 サーバー・モデルの場合、追加キャパシティの永続的活動化のご注文の対応が完了するまでの間、On/Off Capacity on Demand を使用して非アクティブ・プロセッサを一時的に活動化して、ワークロード要件を満たすことができます。詳しくは、12 ページの『On/Off Capacity on Demand』を参照してください。◀◀
 - ▶ 830 および 840 サーバー・モデルの場合、追加キャパシティの永続的活動化のご注文の対応が完了するまでの間、試行期間として非アクティブ・プロセッサを活動化して、ワークロード要件を満たすことができます。詳しくは、10 ページの『試行期間としての非アクティブ・プロセッサの活動化』を参照してください。◀◀
- ご注文にその他のフィーチャーが含まれていなければ、プロセッサ・アクティベーション機構のご注文の完結はさらに早くなります。

プロセッサ・アクティベーション機構を 1 つ以上注文するには、次のステップで行います。

- 活動化する非アクティブ・プロセッサの数を決定します。
これについては、4 ページの『プロセッサの活動化時の決定』のトピックを参照してください。
- IBM ビジネス・パートナーまたは IBM 営業担当員に連絡して、プロセッサ・アクティベーション機構を 1 つ以上ご注文ください。アクティベーション機構は、ご使用のサーバーに固有のアクティベーション・コードを作成するのに使用されます。アクティベーション・コードはお客様宛てにメールで送られますが、すぐに利用できるように iSeries Capacity on Demand Web サイトにも掲載されます。
- 必要な場合は、ご使用のサーバーの重要プロダクト・データを IBM に送信します。
ご注文が処理される前に、ご使用のサーバーから収集された重要プロダクト・データ (VPD) とご注文が組み合わされます。
- サーバーのアクティベーション・コードを入力して、9 ページの『非アクティブ・プロセッサの永続的活動化』を行います。

Capacity Upgrade on Demand の使用

Capacity Upgrade on Demand を使用して、サーバーの 1 つ以上の非アクティブ・プロセッサを永続的に活動化します。

『非アクティブ・プロセッサの永続的活動化』

Capacity Upgrade on Demand を使用してプロセッサを永続的に活動化します。


10 ページの『試行期間としての非アクティブ・プロセッサの活動化』

Capacity Upgrade on Demand を使用して、830 および 840 サーバー・モデルのプロセッサを、無料の試行期間として活動化します。

非アクティブ・プロセッサの永続的活動化

プロセッサ・アクティベーション機構を 1 つ以上購入すると、非アクティブ・プロセッサを活動化するためのアクティベーション・コードを受け取ります。

非アクティブ・プロセッサの一部またはすべてを永続的に活動化するには、以下のステップを実行します。

1. アクティベーション・コードを次のようにして検索します。
 - a. 次の Capacity on Demand Web サイトにアクセスします。
<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/ondemand/cod/> 
 - b. ご使用のサーバーのシステム・タイプとシリアル番号を入力します。
 - c. Web サイトで表示されるアクティベーション・コードを記録します。
2. コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。

注: システム保守ツールを使用するには、システム・キャパシティー管理者特権がある有効な保守ツール・ユーザー ID が必要です。

3. オプション 6 (システム・キャパシティーの処理 (Work with system capacity)) を選択して Enter を押します。
4. オプション 2 (永続的システム・キャパシティーの活動化 (Activate permanent system capacity)) を選択して Enter を押します。
5. アクティベーション・コードのフィールドにアクティベーション・コードを入力して、Enter を押します。「システム・キャパシティーの活動化の確認 (Confirm Activate System Capacity)」画面が表示されます。
6. Enter を押してシステム・キャパシティーの活動化を確認します。
7. 「システム・キャパシティーの処理 (Work with System Capacity)」画面を終了します。
8. サーバーが区画に分割されている場合は、新規キャパシティーを使用する前に、論理区画に対して使用可能なプロセッサを新規に割り当てなければなりません。

活動化されたプロセッサを論理区画に割り当てる方法については、論理区画リソースの動的な移動を参照してください。

9. サーバーが区画に分割されていない場合は、次のステップを行います。
 - a. オプション 5 (システム区画の処理 (Work with system partitions)) を選択して、Enter を押します。

- b. オプション 3 (区画構成の処理 (Work with partition configuration)) を選択して Enter を押します。
- c. PRIMARY の隣に 2 (区画処理資源の変更 (Change partition processing resources)) を入力して、Enter を押します。
- d. **プロセッサの新規数** フィールドの値を入力します。これは活動状態のプロセッサの総数を表すものです。
注: 画面の下部に構成エラーが表示された場合は、デフォルトの一次区画が変更されている (論理区画は活動状態で使用中) ことを示しています。活動化されたプロセッサをサーバーに正しく割り当てするには、論理区画計画を確認してください。
- e. Enter を押して変更を確認します。

10. SST を終了します。

注: アクティベーション・コードを入力すると、非アクティブ・プロセッサは即時に活動化されます。ただし、アクティベーション・コードを内部的に保持されるためには、サーバーを 15 分間実行しなければなりません。アクティベーション・コードを入力してサーバーを 15 分間より短時間実行してシャットダウンすると、サーバーを開始するときにそのアクティベーション・コードを再入力しなければならない場合があります。

これで新規キャパシティーを使い始めることができます。

キャパシティー情報の表示: サーバーの非アクティブ・プロセッサがいくつ活動化されたかを、以下のステップで確認できます。

1. コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。
2. システム・キャパシティー管理者またはシステム・キャパシティー・オペレーターの保守ツール・ユーザー ID を使ってサインオンします。
3. 「システム・キャパシティーの処理 (Work with system capacity)」オプションを選択して、Enter を押します。
4. 「システム・キャパシティー情報の表示 (Display System Capacity Information)」オプションを選択して、Enter を押します。

試行期間としての非アクティブ・プロセッサの活動化

▶▶ 830 および 840 サーバー・モデルでは、追加キャパシティーの永続的活動化のご注文の対応が完了するまでの間、無料の試行期間として非アクティブ・プロセッサを活動化して、ワークロード要件を満たすことができます。ご使用のサーバーにインストールされているすべての非アクティブ・プロセッサを試行期間として活動化するには、以下のステップを実行します。◀◀

1. コンソールから、コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。

注: システム保守ツールを使用するには、システム・キャパシティー管理者特権がある有効な保守ツール・ユーザー ID が必要です。

2. オプション 6 (システム・キャパシティーの処理 (Work with system capacity)) を選択して Enter を押します。「システム・キャパシティーの処理 (Work with System Capacity)」画面が表示されます。
3. オプション 3 (システム一時キャパシティーの処理 (Work with temporary system capacity)) を選択して、Enter を押します。「システム一時キャパシティーの活動化の開始の確認 (Confirm start

temporary system capacity activation)」画面が表示されます。

注: システム一時キャパシティの活動化が使用中、またはすでに使用されていた場合は、このオプションは表示されません。

4. Enter を押してシステム・キャパシティの活動化を確認します。
5. 「システム・キャパシティの処理 (Work with System Capacity)」画面を終了します。
6. サーバーが区画に分割されている場合は、新規キャパシティを使用する前に、論理区画に対して使用可能なプロセッサを新規に割り当てなければなりません。

活動化されたプロセッサを論理区画に割り当てる方法については、論理区画リソースの動的な移動を参照してください。

7. サーバーが区画に分割されていない場合は、次のステップを行います。
 - a. オプション 5 (システム区画の処理 (Work with system partitions)) を選択して、Enter を押します。
 - b. オプション 3 (区画構成の処理 (Work with partition configuration)) を選択して Enter を押します。
 - c. PRIMARY の隣に 2 (区画処理資源の変更 (Change partition processing resources)) を入力して、Enter を押します。
 - d. **プロセッサの新規数**の値を入力します。これは活動状態のプロセッサの総数を表すものです。
注: 画面の下部に構成エラーが表示された場合は、デフォルトの一次区画が変更されている (論理区画は活動状態で使用中) ことを示しています。活動化されたプロセッサをサーバーに正しく割り当てるには、論理区画計画を確認してください。
 - e. Enter を押して変更を確認します。
8. SST を終了します。

これで新規キャパシティを使い始めることができます。

注:

- 14 日間の試行期間が終了する前に、一時的に活動化されたプロセッサを論理区画構成から除去してください。これは、サーバーがそれらのプロセッサを再利用できるようにするためです。試行期間が終わる前に適切な数のプロセッサが再利用可能になっていないと、サーバーのパフォーマンスが低下し、システム参照コード (SRC) A6004730 が表示される場合があります。
- SRC A6004730 が表示された場合は、次のステップを実行してください。
 1. 一時的に活動化されたプロセッサすべてを論理区画構成から除去して、サーバーで再利用できるようにします。論理区画上の資源を移動する方法については、論理区画リソースの動的な移動を参照してください。
 2. IPL を実行します。

シナリオ: Capacity Upgrade on Demand (CUoD)

お客様のワークロードの必要に応じて、Capacity Upgrade on Demand を使用して非アクティブ・プロセッサを活動化することができます。次のシナリオは、永続的に活動化されたキャパシティの計画、注文、および使用のステップを示したものです。

1. フィーチャー・コード 2416 の 840 モデル・サーバーが、8 つのアクティブ・プロセッサと 4 つの非アクティブ・プロセッサで運用されています。サーバーのワークロードが増大するに従って、使用

可能な CPU 資源の使用率が使用可能キャパシティーの 70% 近くなったりそれを超えるようになっていきます。資源を追加する必要があると見込んだ管理者は、非アクティブ・プロセッサのいくつかを活動化することにします。

2. 管理者はプロセッサを活動化する前に、Capacity on Demand のためのサーバーの準備を行います。これには、追加プロセッサがいくつ必要かを知るための傾向分析、追加プロセッサを利用するためのサーバーの準備、および新規キャパシティーの注文の準備を行うことが必要です。▶ 詳しくは、2 ページの『Capacity on Demand の準備』を参照してください。◀
3. 管理者は、追加プロセッサを活動化することによる利点を調査するために、試行期間としてプロセッサを活動化することにします。▶ 詳しくは、10 ページの『試行期間としての非アクティブ・プロセッサの活動化』を参照してください。◀
4. 管理者は、追加プロセッサを活動化したことによりパフォーマンスが向上したのでプロセッサを永続的に購入しても大丈夫であると判断し、IBM 営業担当員または IBM ビジネス・パートナーに連絡、あるいは www.ibm.com にアクセスして、プロセッサ・アクティベーション機構を 4 つ注文します。
5. IBM 営業担当員はその注文を IBM コンフィギュレーターに入力し、その注文の対象のサーバーの重要プロダクト・データ (VPD) の送信を求める通知を受け取ります。VPD データは IBM にファックスで送ることができますし、エレクトロニック・サービス・エージェントを使用して電子的に送信することもできます。▶ 詳しくは、IBM への重要プロダクト・データの送信を参照してください。◀
6. 管理者はアクティベーション・コードを入手して、キャパシティーを永続的に活動化します。これには、ターゲット・サーバーのアクティベーション・コードを入力して、プロセッサを論理区画に割り当てることが必要です。▶ 詳しくは、9 ページの『非アクティブ・プロセッサの永続的活動化』を参照してください。◀

これで、モデル 840 の 12 台のプロセッサがすべて使用可能になります。

On/Off Capacity on Demand

On/Off Capacity on Demand を使用して、iSeries 825、870、および 890 サーバー・モデル上のプロセッサを一時的に活動化および非活動化することにより、業務のピークに対応させることができます。

いくつかのプロセッサを、指定した日数だけ一時的に使用可能にする要求を行うと、それらのプロセッサは即時に使用可能になります。一時キャパシティーの要求の開始と停止を行うことができ、四半期末ごとに使用量が請求されます。

ただし、これはレンタルと同様、柔軟性がある反面、長期にわたる場合は Capacity Upgrade on Demand による永続的キャパシティーの購入に比べて割高になります。おおよその分岐点は 90 プロセッサ日です。つまり、90 プロセッサ日を要求してその料金を支払うとすると、プロセッサを永続的に活動化する場合に支払う価格とほぼ同じ額を支払うことになります。実際の業務にはどちらのオプションが最適かを検討してください。プロセッサの永続的な活動化についての詳細は、6 ページの『Capacity Upgrade on Demand』を参照してください。

On/Off Capacity on Demand の付加的なメリットは、ボーナス・プロセッサ日数があることです。

On/Off Capacity on Demand の最初のご注文で、14 ボーナス日分の一時キャパシティーが与えられます。この最初の、サーバーから要求する 14 プロセッサ日分の一時キャパシティーについては請求されません。

このトピックは、On/Off Capacity on Demand の動作と、それを利用する際に必要なことを理解するためのものです。

『On/Off Capacity on Demand の概念』

まずここで、On/Off Capacity on Demand の概念を理解してください。On/Off CoD で使用可能なサーバー・モデルおよびプロセッサ・フィーチャーもここから知ることができます。

16 ページの『On/Off Capacity on Demand の使用可能化』

サーバーの一時キャパシティを要求する前に、サーバーで On/Off Capacity on Demand を利用できるようにしてください。

16 ページの『On/Off Capacity on Demand の使用』

サーバーで On/Off Capacity on Demand を使用できるようになったら、非アクティブ・プロセッサを一時的に活動化する要求を行います。

19 ページの『On/Off Capacity on Demand の管理』

サーバーの On/Off Capacity on Demand の管理として、一時プロセッサの状況の表示、一時キャパシティの要求のログの表示、要求の停止、サーバーの On/Off Capacity on Demand 機能の終了を行います。

On/Off Capacity on Demand の概念

On/Off Capacity on Demand を使用して、非アクティブ・プロセッサを一時的に活動化することができます。業務のピーク時に必要な日数だけ非アクティブ・プロセッサをオンにでき、その使用期間が費用の対象になります。

On/Off Capacity on Demand を理解する上で重要な概念として、以下があります。

『On/Off Capacity on Demand プロセッサ日数』

On/Off Capacity on Demand を使用して利用する一時キャパシティの活動化、測定、および請求は、プロセッサ日数という単位で行われます。

➤ 14 ページの『On/Off Capacity on Demand で使用可能なプロセッサ数』

サーバー・モデルごとの使用可能なアクティブおよび非アクティブなプロセッサ数を記載しています。◀

15 ページの『On/Off Capacity on Demand イネーブルメント・コード』

On/Off Capacity on Demand を利用することを決定したら、On/Off CoD イネーブルメント機構を注文する必要があります。この結果として入手できる On/Off CoD イネーブルメント・コードを使用して、一時キャパシティの要求を必要なときに行えます。

15 ページの『On/Off Capacity on Demand の請求』

On/Off Capacity on Demand の請求がどのように行われるかを説明しています。

On/Off Capacity on Demand プロセッサ日数

On/Off Capacity on Demand を使用して利用する一時キャパシティの活動化、測定、および請求は、プロセッサ日数 という単位で行われます。

要求プロセッサ日数

要求プロセッサ日数は、一時的に活動化するプロセッサの数に日数を掛けたもので、これらの数値は一時キャパシティの要求で指定されます。サーバーに対して一時キャパシティの要求が行われると、要求が開始されたと見なされます。要求が開始されると、サーバーは 24 時間期間の開始時のたびに、要求されたプロセッサごとに 1 要求プロセッサ日を記録します。

(プロセッサ数) * (要求日数)

未返却プロセッサ日数

▶ On/Off Capacity on Demand 要求が期限切れになっているか停止して、要求されたすべてのプロセッサが論理区画構成から除去されずに戻される状態になっていないときは、プロセッサは戻されていないと見なされます。未返却プロセッサ日は、プロセッサの要求がなくなってもプロセッサを論理区画構成から除去して戻すことが行われていないことをサーバーが検出したときに計算される、24 時間の期間です。

未返却プロセッサ日数は、未返却プロセッサの数に、プロセッサが戻されないままになっている日数を掛けたものです。

(未返却プロセッサの数) * (プロセッサが未返却プロセッサ日数) ◀

ボーナス日数

On/Off CoD イネーブルメント・コードを初めてご注文いただいたときに、お客様のサーバーのレコードの貸方に 14 プロセッサ日が自動的に記録されます。プロセッサ・フィーチャーの変更によりサーバーがアップグレードされて新規のイネーブルメント・コードをご注文いただいた場合、貸方の日数が 14 に設定されます。▶ iSeries Capacity BackUp サーバーの場合は、災害時テスト用にボーナス日数が与えられます (日数は状況によって異なります)。iSeries Capacity BackUp についての詳細は、22 ページの『iSeries for Capacity BackUp』を参照してください。◀

無料日数

無料日数は、IBM のオプションとして、お客様のサーバーのレコードの貸方に手動で記録されます。iSeries Capacity BackUp サーバーの場合、災害が宣言されると、アクティブ・プロセッサごとにプロセッサ日数が貸方に記録されます。アクティブ・プロセッサあたりのプロセッサ日数は、基本プロセッサ数からバックアップ・プロセッサ数を引いて計算されます。

(基本プロセッサ数) - (バックアップ・プロセッサ数)

一時キャパシティがどのように請求されるかについての詳細は、15 ページの『On/Off Capacity on Demand の請求』を参照してください。

On/Off Capacity on Demand で使用可能なプロセッサ数

▶ On/Off Capacity on Demand を使用して、iSeries 825、870、および 890 サーバー・モデルのプロセッサを一時的に活動化および非活動化することにより、業務のピークに対応させることができます。

次の表には、一時的に活動化が可能な非アクティブ・プロセッサがある iSeries サーバー・モデルおよびプロセッサ・フィーチャーがリストされています。

モデル	プロセッサ・フィーチャー	イネーブルメント機構	アクティブ・プロセッサ	非アクティブ・プロセッサ	インストール済みプロセッサ	ボーナス日数
825	2473	1773	3	3	6	14
870	2489	1774	5	3	8	14
870	2486	1776	8	8	16	14
890	2497	1777	16	8	24	14
890	2498	1779	24	8	32	14



On/Off Capacity on Demand イネーブルメント・コード

非アクティブ・プロセッサの一部またはすべての一時的な活動化のためにサーバーを準備することを決定したら、On/Off Capacity on Demand イネーブルメント機構をご注文いただく必要があります。このコードは、キャパシティー・ライセンス・キーと考えることができます。

作成された On/Off イネーブルメント・コードには、次の iSeries Capacity on Demand Web サイトで、ご使用のシステム・タイプとシリアル番号を使用してアクセスすることができます。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/ondemand/cod/> 

イネーブルメント機構の注文方法と On/Off イネーブルメント・コードの入手方法については、16 ページの『On/Off Capacity on Demand の使用可能化』を参照してください。

On/Off イネーブルメント・コードによってサーバーが使用可能になり、一時キャパシティーとして要求可能なプロセッサ日数が、最大 192 日に制限されます。要求がこの値を超えない限り、サーバーの存続期間中は一時キャパシティーの要求を行えます。

この限度に達したら、新規 On/Off CoD イネーブルメント機構を注文して、新規のイネーブルメント・コードをサーバーに入力する必要があります。新規のイネーブルメント・コードが入力されるたびに、一時キャパシティーとして要求可能なプロセッサ日数の制限が、限度いっぱいの 192 プロセッサ日にリセットされます。

On/Off Capacity on Demand 要求がアクティブの場合、または戻されていないプロセッサがある場合は、新規のイネーブルメント・コードを入力することはできません。

On/Off Capacity on Demand の請求

On/Off Capacity on Demand の請求は、プロセッサ日数の単位で行われます。24 時間期間の開始時に、戻されていないプロセッサごとに 1 プロセッサ日が請求されます。要求が期限切れになっている、または停止しているにも関わらず、要求されたプロセッサが論理区画構成で引き続き使用されていることをサーバーが検出した場合、この 24 時間期間が開始します。

複数プロセッサの要求において、一部のプロセッサは使用可能にされ、残りの使用中のプロセッサは未返却であると考えられる場合があります。未返却のプロセッサが使用可能になると、サーバーはそれらを再利用できるようにします。戻されていないプロセッサがあるときは、新規 On/Off Capacity on Demand 要求を行えません。

お客様が On/Off イネーブルメント・コードを受け取る前に必要なカスタマー契約では、その期間中にお客様が一時キャパシティーを使用されたかどうかにかかわらず、月に最低 1 回は請求データを報告していただくことになっています。請求データは、各請求期間 (カレンダー上の四半期) 末に行われる請求金額の計算に使用されます。報告方法のセットアップについての説明は、17 ページの『IBM への月次レポートの設定』を参照してください。

On/Off CoD イネーブルメント機構を注文し、その結果として得た On/Off CoD イネーブルメント・コードを入力して使用可能にしたサーバーの請求データの報告が、請求四半期中に行われない場合は、一時キャパシティーのプロセッサ日数として 90 日が見積もられて請求されます。

要求されたまたは戻されていない一時キャパシティーのプロセッサ日数には、貸方のプロセッサ日数が充当されます。これは、プロセッサ日数を使い切るまで自動的に行われます。

IBM ビジネス・パートナーまたは IBM 営業担当員は、お客様の一時キャパシティーの要求の通知を受け、請求フィーチャーの数量に応じて発注を行います。

On/Off Capacity on Demand の使用可能化

サーバーの一時キャパシティーを要求する前に、サーバーで On/Off Capacity on Demand を使用できるようにします。

重要: サーバーで On/Off Capacity on Demand を使用できるようにする前に、OS/400 V5R3 用の最新の累積 PTF パッケージをインストールして適用してください。詳しくは、累積 PTF パッケージのインストールを参照してください。

iSeries サーバーで On/Off Capacity on Demand を使用できるようにするには、以下のようになります。

1. IBM ビジネス・パートナーまたは IBM 営業担当員に連絡して、On/Off Capacity on Demand を要求してください。

IBM ビジネス・パートナーまたは営業担当員が、IBM との間で必要な On/Off Capacity on Demand 契約の完了までガイドします。

2. IBM ビジネス・パートナーまたは IBM 営業担当員が、お客様の On/Off CoD イネーブルメント機構を注文します。▶ 詳しくは、14 ページの『On/Off Capacity on Demand で使用可能なプロセッサ数』を参照してください。◀
3. 結果としての On/Off CoD イネーブルメント・コードを入手します。
作成されたイネーブルメント・コードは、E メールでお客様に送られます。また、次の iSeries Capacity on Demand Web サイトで、ご使用のシステム・タイプとシリアル番号を使用して、イネーブルメント・コードにアクセスすることができます。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/ondemand/cod/> 

4. サーバーに On/Off CoD イネーブルメント・コードを入力します。▶ 詳しくは、On/Off CoD イネーブルメント・コードの入力を参照してください。◀

On/Off Capacity on Demand の使用

On/Off Capacity on Demand を使用可能にすると、サーバーで一時キャパシティーの使用を開始できます。これを行うには、活動化する非アクティブ・プロセッサの数と、活動化しておく日数を指定します。

一時キャパシティーの使用を開始するには、以下のタスクを完了してください。

17 ページの『IBM への月次レポートの設定』

ご使用の一時キャパシティーの要求および活動を IBM に報告するための方法をセットアップします。この報告には、エレクトロニック・サービス・エージェント機能、ファクシミリ、または E メールを使用します。

18 ページの『サーバーの一時キャパシティーの要求』

非アクティブ・プロセッサを一時的に活動化するには、サーバーの一時キャパシティーを要求します。

18 ページの『活動化されたプロセッサの論理区画への移動』

サーバーの一時キャパシティーを要求して活動化したら、活動化されたプロセッサを論理区画に割り当てます。この割り当ては、サーバーにデフォルトの 1 つの区画しかなく、論理区画を積極的に使用するわけではない場合でも、行う必要があります。

IBM への月次レポートの設定

お客様が On/Off イネーブルメント・コードを受け取る前に必要なカスタマー契約では、その期間中にお客様が一時キャパシティーを使用されたかどうかにかかわらず、月に最低 1 回は請求データを報告していただくことになっています。

一時キャパシティーの要求に関する情報を IBM に報告する方法は 3 つあります。最もよく使用される報告方法は、エレクトロニック・サービス・エージェントを使用して情報を電子的に送信する方法です。ファクシミリまたは E メールを使用して報告することもできます。ファクシミリまたは E メールを使用する場合は、IBM との個別契約にご署名いただく必要があります。

エレクトロニック・サービス・エージェントの使用

一時キャパシティー活動の月次レポートは、エレクトロニック・サービス・エージェントを使用して IBM に電子的に送信することができます。このエレクトロニック・サービス・エージェントは、IBM の包括的な技術サービスで IBM iSeries 専用のサポート・イニシアチブである、エクストリーム・サポートの一部です。エレクトロニック・サービス・エージェントは、サーバーのインベントリ情報をお客様が定義できるタイム・テーブルに基づいて定期的に IBM に送信することを目的としています。詳しくは、4 ページの『エレクトロニック・サービス・エージェントの要件』を参照してください。

ファクシミリまたは Eメールの使用

一時キャパシティーの要求に関する情報をファクシミリまたは E メールで送信する場合は、以下のステップで行います。

1. コンソールから、コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。
注: システム保守ツールを使用するには、システム・キャパシティー管理者特権がある有効な保守ツール・ユーザー ID が必要です。
2. オプション 6 (システム・キャパシティーの処理 (Work with System Capacity)) を選択して Enter を押します。
3. オプション 4 (On/Off Capacity on Demand の処理 (Work with On/Off Capacity on Demand)) を選択して Enter を押します。
4. F11 (On/Off Capacity on Demand の表示 (Display On/Off Capacity on Demand)) を押します。
5. F6 を押してファックスで送る情報を印刷します。情報を E メールで送信する場合は、「On/Off Capacity on Demand の表示 (Display On/Off Capacity on Demand)」の表示の画面キャプチャーを取り込みます。
6. ファクシミリを使用する場合は、次の情報を含むファクシミリ文書を作成します。
 - ファクシミリ送信先情報:
 - 宛先: Capacity on Demand Administrator (icod@us.ibm.com)
 - FAX 番号: 507-253-4553
 - 場所: Rochester, Minnesota
 - ファクシミリ発信元情報:
 - お客様の名前:
 - お客様の連絡窓口:
 - お客様の住所:
 - お客様の電話番号:
 - お客様の FAX 番号:

7. 文書を次の FAX 番号にファックスで送ります。
507-253-4553

または

電子イメージを次のアドレスに E メールで送信します。
icod@us.ibm.com

サーバーの一時キャパシティーの要求

非アクティブ・プロセッサを一時的に活動化するには、サーバーの一時キャパシティーを要求する必要があります。一時キャパシティーを要求することにより、指定した数の非アクティブ・プロセッサが、指定した日数だけオンになります。

サーバーの一時キャパシティーを要求するには、以下のステップで行います。

1. コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。
注: システム保守ツールを使用するには、システム・キャパシティー管理者特権またはシステム・キャパシティー・オペレーター権限がある有効な保守ツール・ユーザー ID が必要です。
2. オプション 6 (システム・キャパシティーの処理 (Work with system capacity)) を選択します。
3. オプション 4 (On/Off Capacity on Demand の処理 (Work with On/Off Capacity on Demand)) を選択します。
4. 必要なプロセッサ数と日数を指定し、Enter を押します。
5. アクションの確認が表示されたら Enter を押します。この特定のサーバーで一時キャパシティーを使用可能にする前に、契約の署名を求められます。
6. SST を終了します。

一時キャパシティーの要求はこれで開始されますが、サーバーで使用できるようにするには、活動化されたプロセッサを論理区画に割り当てる必要があります。詳しくは、『活動化されたプロセッサの論理区画への移動』を参照してください。

注: プロセッサ日ごとの請求は、一時キャパシティーの要求が確認されると直ちに始まります。これは、要求されたプロセッサが区画に割り当てられていて動作可能かどうかということには関係なく行われます。1 プロセッサ日は、最初は要求が確認されたときに、要求されたプロセッサごとに記録され、その後も 24 時間期間の開始時に要求がアクティブであれば、そこで記録されていきます。要求の最後の 24 時間より前に要求が停止すると、未使用のプロセッサ日数は、使用されなかったものとしてそのまま戻されます。

一時キャパシティーのアクティブ要求を、その期限が切れる前に停止することができます。詳しくは、20 ページの『期限切れ前の一時キャパシティー要求の停止』を参照してください。

活動化されたプロセッサの論理区画への移動

サーバーの一時キャパシティーを要求したら、活動化されたプロセッサを論理区画に移動つまり割り当てる必要があります。要求したプロセッサ日数が請求されるため、プロセッサが活動化されたら直ちに論理区画に割り当てて、一時キャパシティーを最大限に活用できるようにすることが重要です。➤ On/Off Capacity on Demand プロセッサ日数についての詳細は、13 ページの『On/Off Capacity on Demand プロセッサ日数』を参照してください。⚡


重要: ご使用のサーバーが論理区画を使用する構成になっていなくても、活動化されたプロセッサを論理区画に割り当てなければなりません。V5R1 から、論理区画を積極的に使用してもしなくても、サーバーには基本区画が構成されます。その結果、要求したプロセッサを使用するためには、活動化されたプロセッサを単一のデフォルト一次区画に割り当てる必要があります。

論理区画の機能を実行するには、iSeries のグラフィカル・ユーザー・インターフェースである iSeries ナビゲーターを使用するか、キャラクター・ベースのインターフェースで SST を使用します。詳しくは、iSeries ナビゲーター、DST、および SST を使用した論理区画の管理 (Manage logical partitions by using iSeries Navigator, DST, and SST)を参照してください。

活動化されたプロセッサを SST を使用して論理区画に移動するには、以下のようにします。

1. コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。
注: システム保守ツールを使用するには、システム・キャパシティー管理者特権がある有効な保守ツール・ユーザー ID が必要です。システム区画管理の論理区画権限も必要です。
2. オプション 5 (システム区画の処理 (Work with system partitions)) を選択して、Enter を押します。
3. オプション 3 (区画構成の処理 (Work with partition configuration)) を選択して Enter を押します。
4. PRIMARY の横のオプション 2 (区画処理資源の変更 (Change partition processing resources)) を選択して、Enter を押します。
5. 「**プロセッサの新規数 (New number of processors)**」の値を入力して Enter を押します。この値はアクティブ・プロセッサの総数を表していなければなりません。
注: 構成エラー・メッセージが表示されたら、論理区画のエラー・メッセージおよび報告書を参照してください。
6. Enter を押して変更を確認します。
7. SST を終了します。

注:

-  要求の期限が切れる前に一時キャパシティーをサーバーが再利用できるようにすると、要求は期限切れになって「**On/Off Capacity on Demand の処理 (Work With On/Off Capacity on Demand)**」の表示から除去されます。一時的に活動化されたプロセッサを論理区画構成から除去し、サーバーで再利用できるようにします。
- 一時キャパシティーの要求の期限が切れる前に一時キャパシティーを再利用できるようにしなかった場合は、要求は期限切れになって「**On/Off Capacity on Demand の処理 (Work With On/Off Capacity on Demand)**」の表示から除去されます。なお、サーバーは、区画にまだ割り当てられている一時キャパシティーを未返却プロセッサ日数として扱い、未返却プロセッサ日数には、要求したプロセッサ日数の課金と同じ料金が課金されます。◀

On/Off Capacity on Demand の管理

一時キャパシティーに関して、日常の最低限の管理が必要です。一方、以下の管理タスクを行うことができます。

20 ページの『On/Off CoD プロセッサ活動化状況の表示』

活動化されている非アクティブ・プロセッサ数の情報を表示します。

20 ページの『一時キャパシティー要求のログの表示』

タイム・スタンプおよび活動の詳細を含めて、ヒストリー・ログに含まれる一時キャパシティー要求に関する情報を表示します。

『期限切れ前の一時キャパシティー要求の停止』

一時キャパシティーの特定の要求を、その期限が切れる前に停止することができます。要求した一時キャパシティーの期間中のどこかの時点で一時キャパシティーの要求を停止するには、ここでのステップで行います。サーバーでは On/Off Capacity on Demand は使用可能状態のままですが、一時キャパシティーの要求は停止します。

21 ページの『On/Off Capacity on Demand の終了』

サーバーに完了コードを入力することで、サーバーでの On/Off Capacity on Demand 機能を中断し、将来使用できるように使用不可にしておきます。

On/Off CoD プロセッサ活動化状況の表示

活動化されている非アクティブ・プロセッサ数の情報を表示するには、以下のステップで行います。

1. コンソールから、コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。
注: システム保守ツールを使用するには、システム・キャパシティー管理者特権がある有効な保守ツール・ユーザー ID が必要です。
2. オプション 6 (システム・キャパシティーの処理 (Work with system capacity)) を選択します。
3. オプション 4 (On/Off Capacity on Demand の処理 (Work with On/Off Capacity on Demand)) を選択します。

一時キャパシティー要求のログの表示

一時システム・キャパシティーのヒストリー・ログには、一時キャパシティー要求が、タイム・スタンプと活動の詳細とともに表示されます。

サーバーの一時キャパシティー要求のログを表示するには、以下のステップで行います。

1. コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。
注: システム保守ツールを使用するには、システム・キャパシティー管理者特権またはシステム・キャパシティー・オペレーター権限がある有効な保守ツール・ユーザー ID が必要です。
2. オプション 6 (システム・キャパシティーの処理 (Work with system capacity)) を選択して Enter を押します。
3. F10 を押してヒストリー・ログを表示します。

期限切れ前の一時キャパシティー要求の停止

要求した一時キャパシティーの期間中のどの時点でも、一時キャパシティーの要求を停止することができます。

たとえば、1 つの非アクティブ・プロセッサを 14 日間だけ一時的に活動化することを要求したとします。この要求から 7 日後、要求の残りの 7 日間は一時的に活動化したプロセッサは必要ないと判断します。要求を停止して、要求に含まれる未使用の 24 時間期間に対して請求が行われないようにすることができます。

一時キャパシティーのアクティブ要求を、その期限が切れる前に停止するには、以下を行います。

1. 一時的に活動化されたプロセッサを、割り当てられていた論理区画から移動して、サーバーが再利用できるようにします。論理区画の機能を実行するには、iSeries のグラフィカル・ユーザー・インターフェースである iSeries ナビゲーターを使用するか、キャラクター・ベースのインターフェースで SST を使用します。詳しくは、iSeries ナビゲーター、DST、および SST を使用した論理区画の管理 (Manage logical partitions by using iSeries Navigator, DST, and SST)を参照してください。

注： 一時的に活動化したプロセッサの区画の割り振りを解除しないと、サーバーは未返却プロセッサ日数をカウントし続けるため、四半期末にそれが請求されることとなります。サーバーにシステム参照コード (SRC) A6004730 が表示されることもあります。

2. コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。
注： システム保守ツールを使用するには、システム・キャパシティー管理者特権またはシステム・キャパシティー・オペレーター権限がある有効な保守ツール・ユーザー ID が必要です。
3. オプション 6 (システム・キャパシティーの処理 (Work with system capacity)) を選択します。
4. オプション 4 (On/Off Capacity on Demand の処理 (Work with On/Off Capacity on Demand)) を選択します。
5. オプション 2 を選択して要求を停止し、変更の確認を行います。
6. 停止要求が完了すると、Stop request successful (停止要求が正常に完了しました) というメッセージが表示されます。

重要： 以下の組み合わせのアクションを、短時間で連続して実行しないようにしてください。

1. 一時キャパシティー要求を開始する。
2. 一時キャパシティー要求を停止する。
3. 新規の一時キャパシティー要求を開始して LPAR 構成を変更する。

この結果として SRC A6004730 になり、未返却プロセッサ日数がシステムに課金される場合があります。この振る舞いを回避するには、一時キャパシティーの要求を停止してから新規要求を開始するまで、15 分間待ってください。

On/Off Capacity on Demand の終了

サーバー上の On/Off Capacity on Demand 機能を終了して、将来使用できるように使用不可にするには、On/Off 完了コードを入手してサーバーに入力する必要があります。この完了コードを入手するには、On/Off 完了コードの要求を、CoD 管理者 (tcod@us.ibm.com) に送信してください。

サーバーの一時キャパシティーのこれからの使用を不可にするには、完了コードを入手した後に、以下のステップを実行します。

1. コンソールから、コマンド行で STRSST と入力して、システム保守ツール (SST) を開始します。SST にサインオンします。

注： システム保守ツールを使用するには、システム・キャパシティー管理者特権がある有効な保守ツール・ユーザー ID が必要です。

2. オプション 6 (システム・キャパシティーの処理 (Work with system capacity)) を選択します。
3. オプション 3 (On/Off Capacity on Demand の使用可能化 (Enable On/Off Capacity on Demand)) を選択します。
4. On/Off 完了コードを入力して Enter を押します。

注： 実際はイネーブルメント・コードではなく完了コードを入力しますが、完了コードは「**On/Off イネーブルメント・コード (On/Off enablement code)**」フィールドに入力してください。

On/Off Capacity on Demand 要求がアクティブの場合、または未返却プロセッサがある場合は、完了コードは受け入れられません。


5. 確認で Enter を押します。
6. 「システム・キャパシティーの処理 (Work with System Capacity)」画面を終了します。

7. SST を終了します。

iSeries for Capacity BackUp

▶ iSeries for Capacity BackUp オファリングは、オフサイト災害時回復サーバーを必要とする企業を対象としています。iSeries for Capacity BackUp オファリングでは iSeries On/Off Capacity on Demand 機能を使用して、どのようなワークロードにも使用できる最小セットのアクティブ・プロセッサと、災害時に無料で使用できる多数の非アクティブ・プロセッサを提供します。On/Off Capacity on Demand カスタマー契約の iSeries Capacity BackUp サーバー用特別補足に署名していただく必要があります。On/Off Cod についての詳細は、12 ページの『On/Off Capacity on Demand』を参照してください。

On/Off Capacity on Demand の付加的なメリットは、ボーナス・プロセッサ日数があることです。指定された日数の無料ボーナス・プロセッサ日数がそれぞれの iSeries for Capacity BackUp オファリングに与えられ、災害時テストに使用することができます。

Capacity BackUp オファリングについての詳細は、iSeries for Capacity BackUp  Web サイトを参照してください。

以下のトピックでは、iSeries for Capacity BackUp オファリングを利用するにあたって必要な情報が示されています。

『iSeries for Capacity BackUp で使用可能なプロセッサ数』

サーバー・モデルごとの使用可能なアクティブおよび非アクティブなプロセッサ数を記載しています。

23 ページの『iSeries Capacity BackUp サーバーのソフトウェア・ライセンス』

iSeries Capacity BackUp サーバーのソフトウェア・ライセンスに関する固有の考慮事項を記載しています。



iSeries for Capacity BackUp で使用可能なプロセッサ数

▶ iSeries for Capacity BackUp オファリングは、オフサイト災害時回復サーバーを必要とする企業を対象としています。iSeries for Capacity BackUp オファリングでは iSeries 12 ページの『On/Off Capacity on Demand』機能を使用して、どのようなワークロードにも使用できる最小セットのアクティブ・プロセッサと、災害時に無料で使用できる多数の非アクティブ・プロセッサを提供します。

On/Off CoD イネーブルメント・コードにより、サーバーで一時キャパシティーとして要求可能なプロセッサ日数が、特定の最大日数に制限されます。要求がこの値を超えない限り、サーバーの存続期間中は一時キャパシティーの要求を行えます。

この限度に達したら、新規 On/Off CoD イネーブルメント機構を注文して、新規のイネーブルメント・コードをサーバーに入力する必要があります。新規のイネーブルメント・コードが入力されるたびに、一時キャパシティーとして要求可能なプロセッサ日数の制限が、プロセッサ日数の限度いっぱいまでリセットされます。On/Off Capacity on Demand 要求がアクティブの場合、または戻されていないプロセッサがある場合は、新規のイネーブルメント・コードを入力することはできません。

次の表は、iSeries Capacity BackUp サーバー・モデル、プロセッサ・フィーチャー・コード、および一時キャパシティーとして要求可能なプロセッサ最大日数を、一覧にまとめたものです。


次の表には、iSeries for Capacity BackUp オファリングを使用して一時的に活動化することのできる非アクティブ・プロセッサがある iSeries サーバー・モデルおよびプロセッサ・フィーチャーがリストされています。

モデル	プロセッサ・フィーチャー	イネーブルメント機構	アクティブ・プロセッサ	非アクティブ・プロセッサ	インストール済みプロセッサ	無料プロセッサ日数
825	2495	1779	3	3	6	60
870	2496	1780	8	8	16	120
890	2499	1781	24	8	32	180



iSeries Capacity BackUp サーバーのソフトウェア・ライセンス

iSeries Capacity BackUp サーバーのスタートアップ・プロセッサには OS/400 ライセンス交付が含まれており、一時キャパシティーの使用にあたっては OS/400 ライセンスは必要ありません。iSeries Capacity BackUp サーバーには、IBM ソフトウェア・ライセンスは必要ありません。IBM 以外のソフトウェア・ライセンスは、ソフトウェア・プロバイダーにより明示的に規定されたソフトウェア層または条件付き使用ライセンスに基づきます。

iSeries Capacity BackUp サーバーについての詳細は、iSeries for Capacity BackUp  Web サイトを参照してください。

Capacity on Demand の関連情報

以下に、Capacity on Demand のトピックと関連がある iSeries 資料 (PDF 形式)、Web サイト、さらに Information Center のトピックをリストします。以下の PDF のいずれも表示または印刷できます。

マニュアル

- **Performance Tools for iSeries**



この資料では、システム、ジョブ、またはプログラム・パフォーマンスに関するデータを収集するために必要な情報をプログラマーに提供します。資料には、存在する可能性のある非効率性を識別して訂正するための、パフォーマンス・データの印刷と分析に関するヒントが載せられているほか、マネージャー機能やエージェント機能に関する情報が示されています。

Web サイト

- **Performance Management for IBM eServer iSeries**



(www.ibm.com/servers/eserver/iseries/perfmgmt/resource.htm)

この参照先には、パフォーマンス・ベンチマーク、キャパシティー・プランニング、およびサーバー・パフォーマンスの計画に役立つ、サーバー・パフォーマンスに関する高水準の技術情報があります。

- **iSeries Capacity on Demand**



(www.ibm.com/servers/eserver/iseries/ondemand/cod/)

この参照先には、マーケティング・プレゼンテーション、計画ガイド、活動化およびを検索する場所へのリンクを含めて、Capacity on Demand に関する情報があります。

• **iSeries for Capacity BackUp**



(www.ibm.com/servers/eserver/iseries/hardware/is4cbu/)

この参照先には、iSeries サーバーで使用可能な IBM のビジネス継続オファリングの一つである、iSeries for Capacity BackUp オファリングに関する情報があります。iSeries for Capacity BackUp オファリングは、オフサイト災害時回復マシンを必要とする企業を対象としています。

その他の情報

- 論理区画トピック
- パフォーマンス・トピック
- バックアップおよび回復トピック
- エクストリーム・サポート・トピック

PDF ファイルの保存

表示または印刷のために PDF をワークステーションに保存するには、以下のようにします。

1. ブラウザーで PDF を右マウス・ボタン・クリックする (上部のリンクを右マウス・ボタン・クリック)。
2. Internet Explorer を使用している場合は、「対象をファイルに保存...」をクリックする。Netscape Communicator を使用している場合は、「リンクを名前を付けて保存...」をクリックする。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。このアプリケーション

は、Adobe Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  からダウンロードできます。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

本書は、本書で指定された機械を保守または修理する目的で、ハードウェア・サービス営業員が使用するものです。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

本書は、本書で指定された機械の操作または計画の目的で、お客様営業員が使用するものです。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Electronic Service Agent

eServer

IBM

iSeries

OS/400

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。



Printed in Japan